中、領狀更無異儀、令興源家中絶跡給之條、感涙遮眼、非言語之所覃也者、其後有盃酒、次、當時御居所非指要害地、又非御曩跡、速可令出相模國鎌倉給、常胤相率門客等、爲御迎可參向之由申也、十月六日乙酉、著御于相模國、畠山次郎重忠爲先陣、千葉介常胤候御後、凡扈從軍士、不知幾千萬、楚忽之間、未及營作沙汰、以民屋被定御宿館云云、

〔吾妻鏡三十〕文曆二年〇嘉禎元年十二月廿日戊申、爲御不例御祈、於御所南庭、被行七座泰山府君祭、〇中略及黃昏、被行四角四境祭、〇中略小袋坂、雅樂大夫泰房小壺、近江大夫親貞六浦、陰陽少允以平固瀨河、縫殿助文方

〔海道記源光行〕申の刻〇眞應二年四月十七日に湯井濱に落著ぬ、えばらく休みて、此所をみれば、數百艘の舟ともづなをくさりて、大津のうらに似たり、千万宇の宅軒をならべて、大淀のわたりにことならず、御靈の鳥居の前に日をくらして後、若宮大路より宿所につきぬ、〇中略十八日、此宿の南の軒ばに、高き丸山あり、山の下に細き小川あり、峯のあらしこゑ落て、夕の袖をひるがへし、灣水ひゞきそゝぎて、夜の夢をあらふ、年頃ゆかしかりつる所かいつしか周覽相もよほし侍れども、いまだ旅なれば今日はむなしく暮しつ、〇中略其後立出てみれば、此ところの景趣は、うみあり、山有、水木たよりあり、廣きにもあらず、狹にもあらず、街衢のちまたは、かた〳〵に通ぜり、實に此聚おなし邑をなす、鄕里都を論じて、望まづめづらしく、豪をえらび賢をえらぶ、門擧しきみをならべて、地文賑り、をろ〳〵將軍の貴居を垣間見れば、花堂たかくおしびらいて、翠簾の色喜氣をふくみ、朱欄妙にかまへて、玉砌のいしずへ光をみがく、春にあへる鶯のこゑは、好客堂上の花にあざけり、あしたをおくる龍歸は、參會門前の市に斷ゆ、論せず本より春日山より出たれば、貴光たかく照て、萬人みな瞻仰士風塵をはらふ、威驗遠く誡て、四方ごと〳〵く聞きにおそる、何ぞ況や舊水源すみまさりて、清流いよ〳〵遺跡をうるほし、新花榮鮮にひらけて、紫殿はるかに万歳をちぎる、凡座制を帷帳の中に廻て、徽肅郡國の間につくめたり、しかのみならず家室は局をわすれて、夜